

今、秋田で 起きている こと

2026年4月26日

秋田県 人とクマとの共生を考えるフォーラム

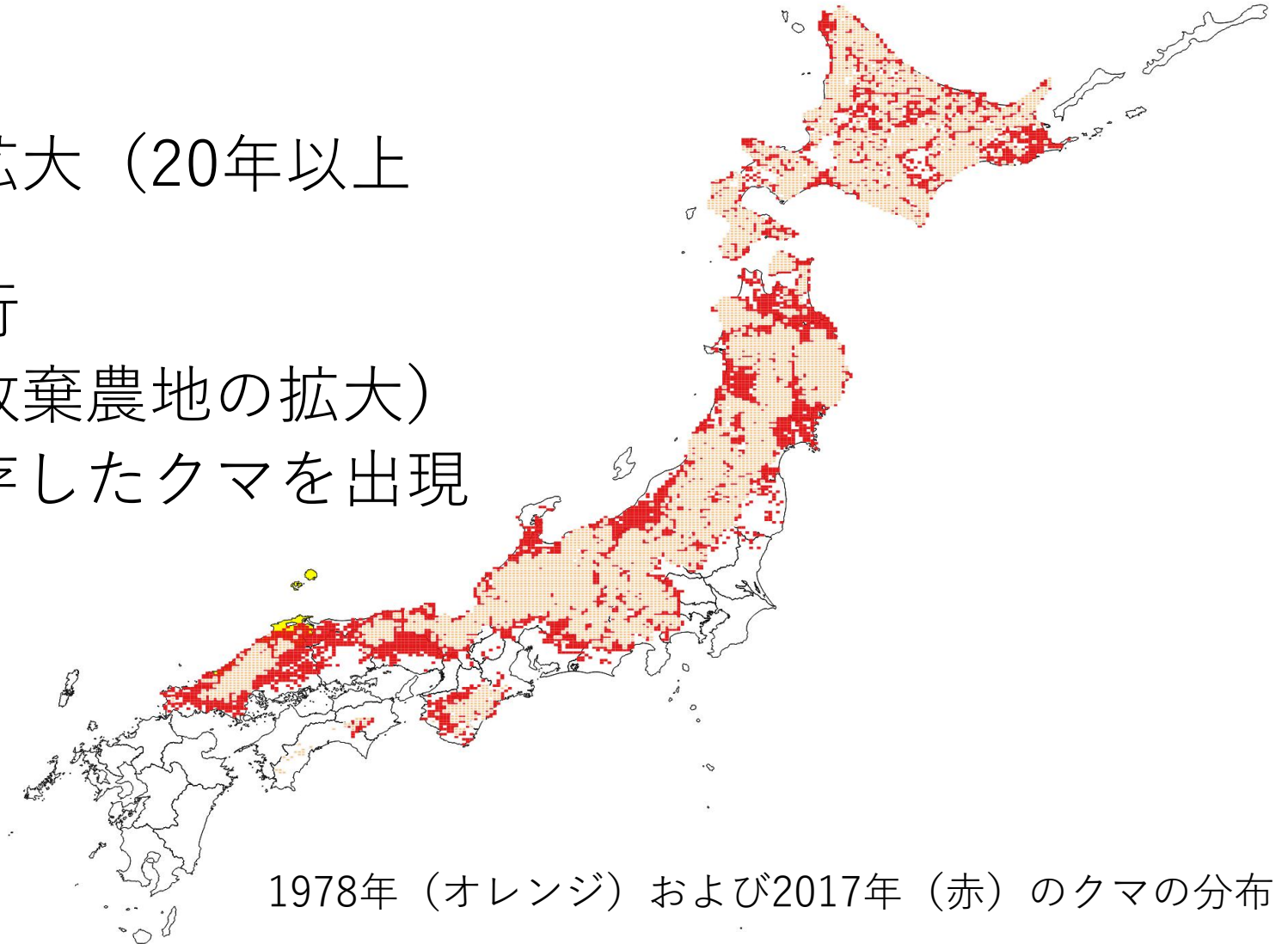
茨城県自然博物館／東京農業大学

山崎晃司



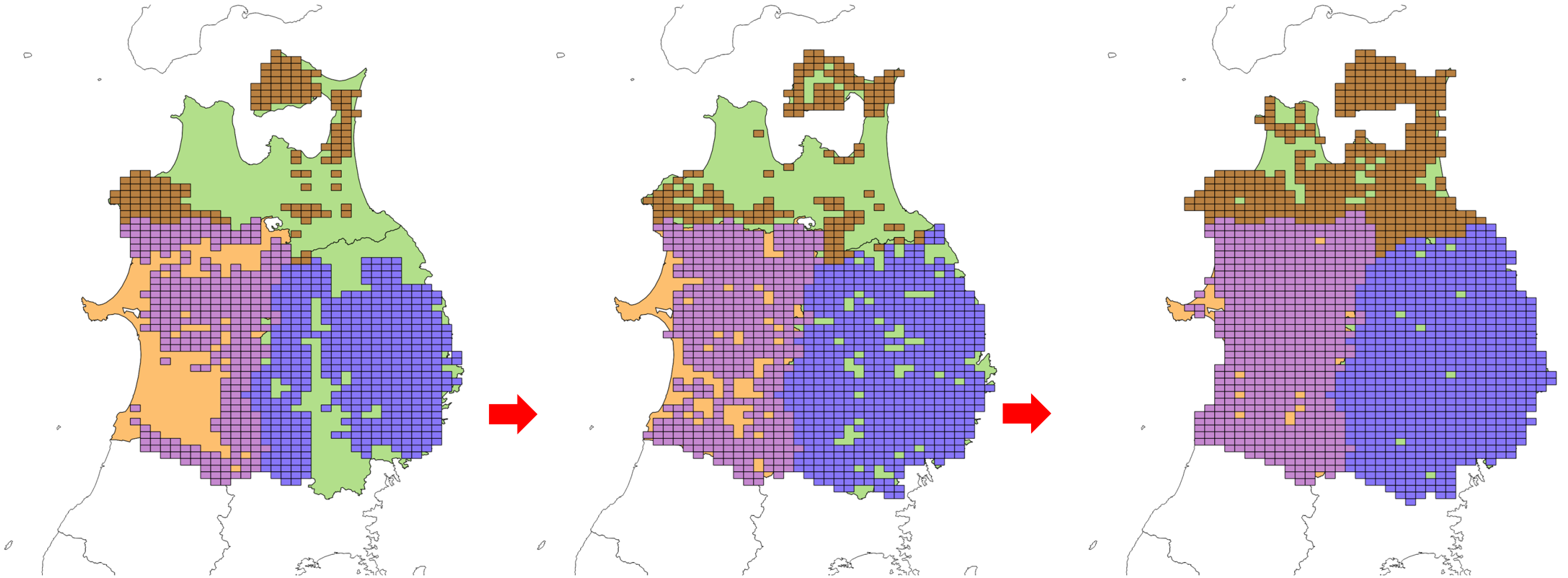
なぜ秋田でクマの出没が多いのか

- 分布域の早い時期での拡大（20年以上前）
- 人口減少と高齢化の進行
- 農地の変化（例えば，放棄農地の拡大）
- 以上が，人間生活に依存したクマを出現させた可能性



1978年（オレンジ）および2017年（赤）のクマの分布

東北3県でのクマの分布域の変化

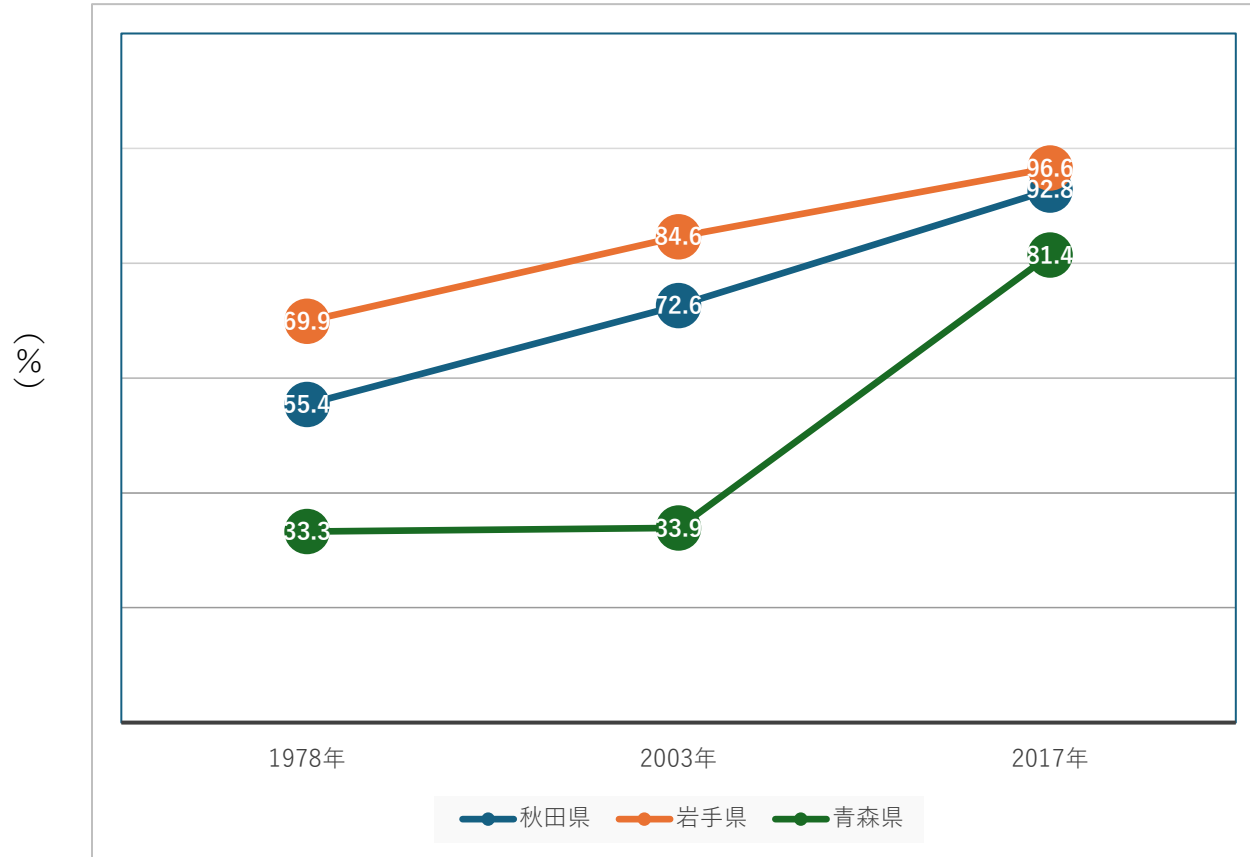


1978年

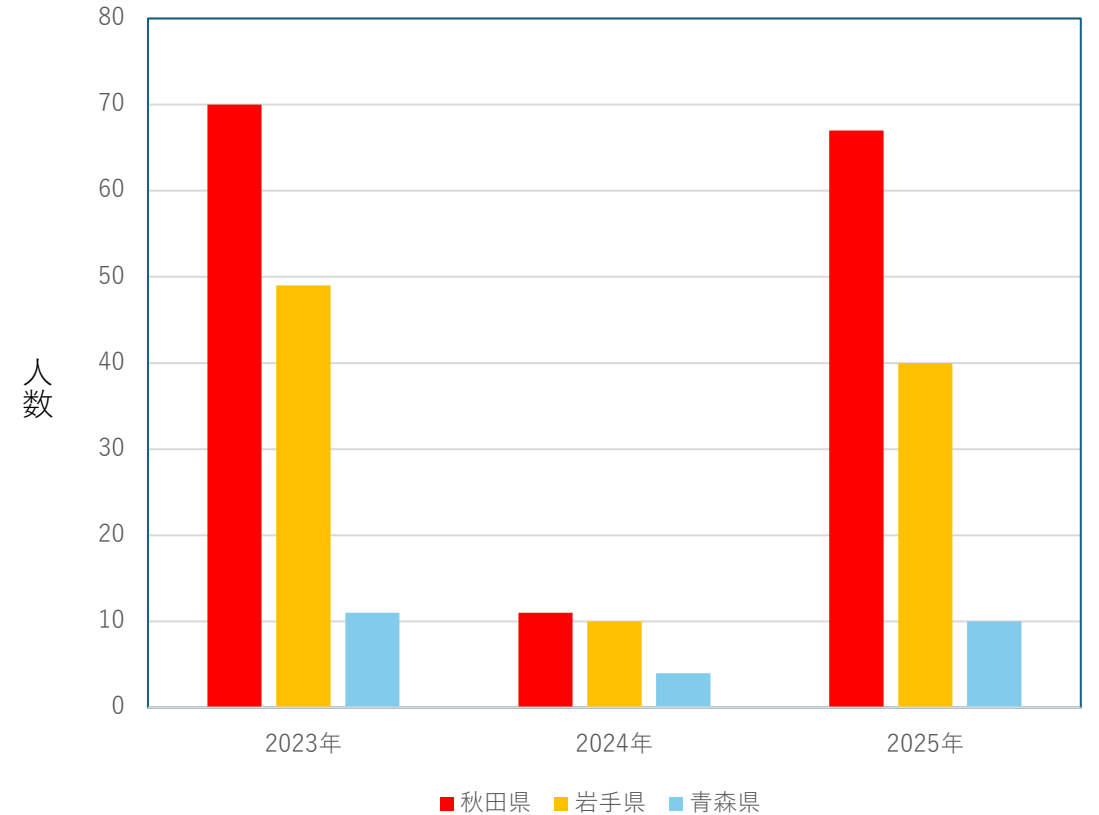
2003年

2017年

秋田県・岩手県は早い時期に分布が最大

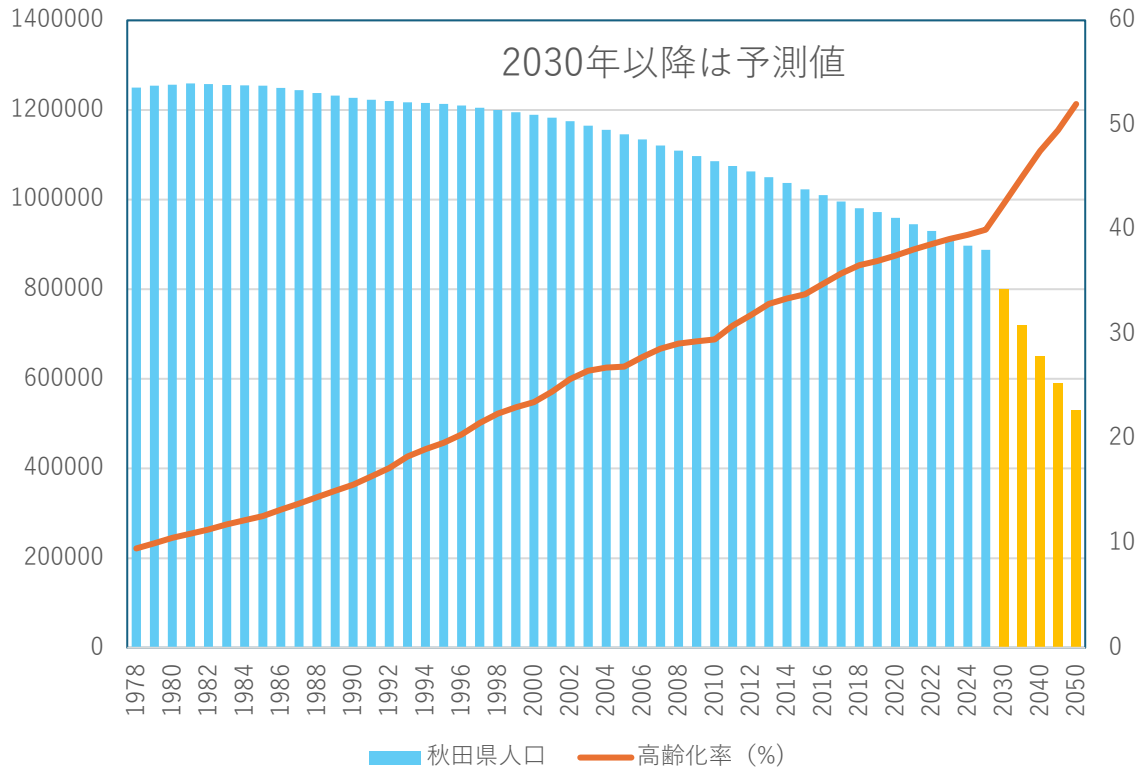


3県に占めるクマの生息メッシュの年次変化 (%)

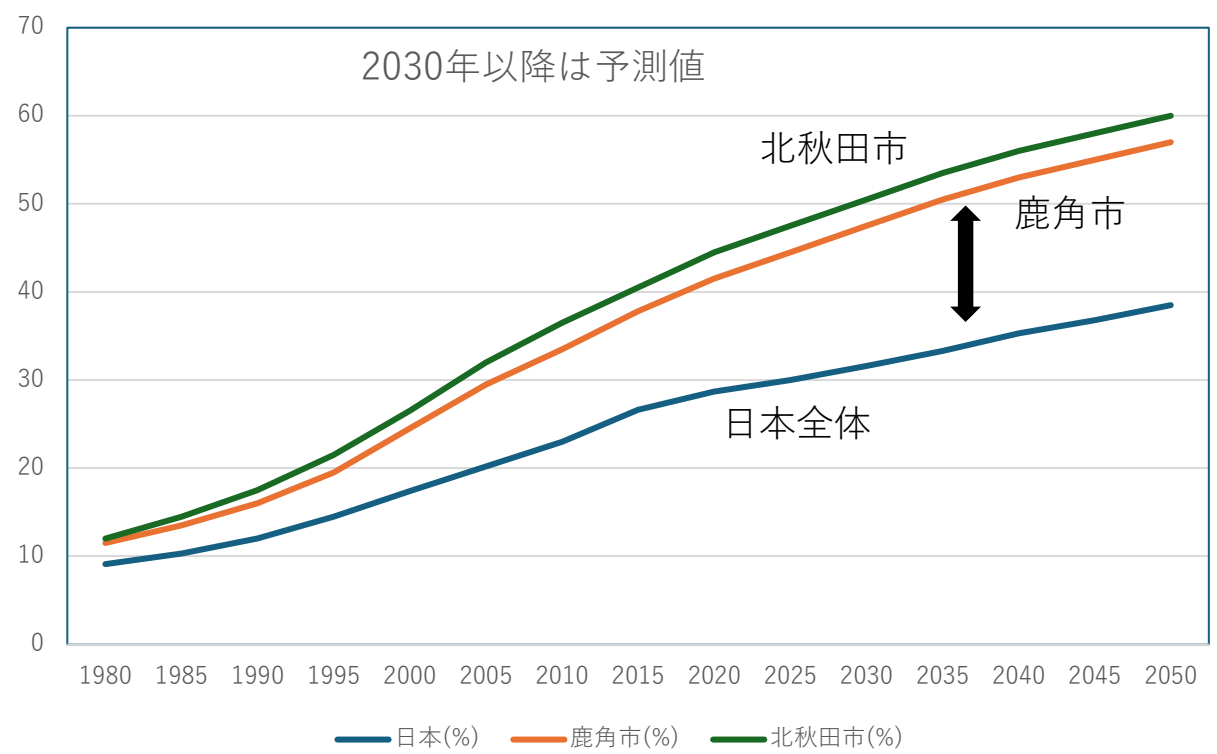


3県での過去3年間のクマによる人身事故人数

人口減少と高齢化の進行

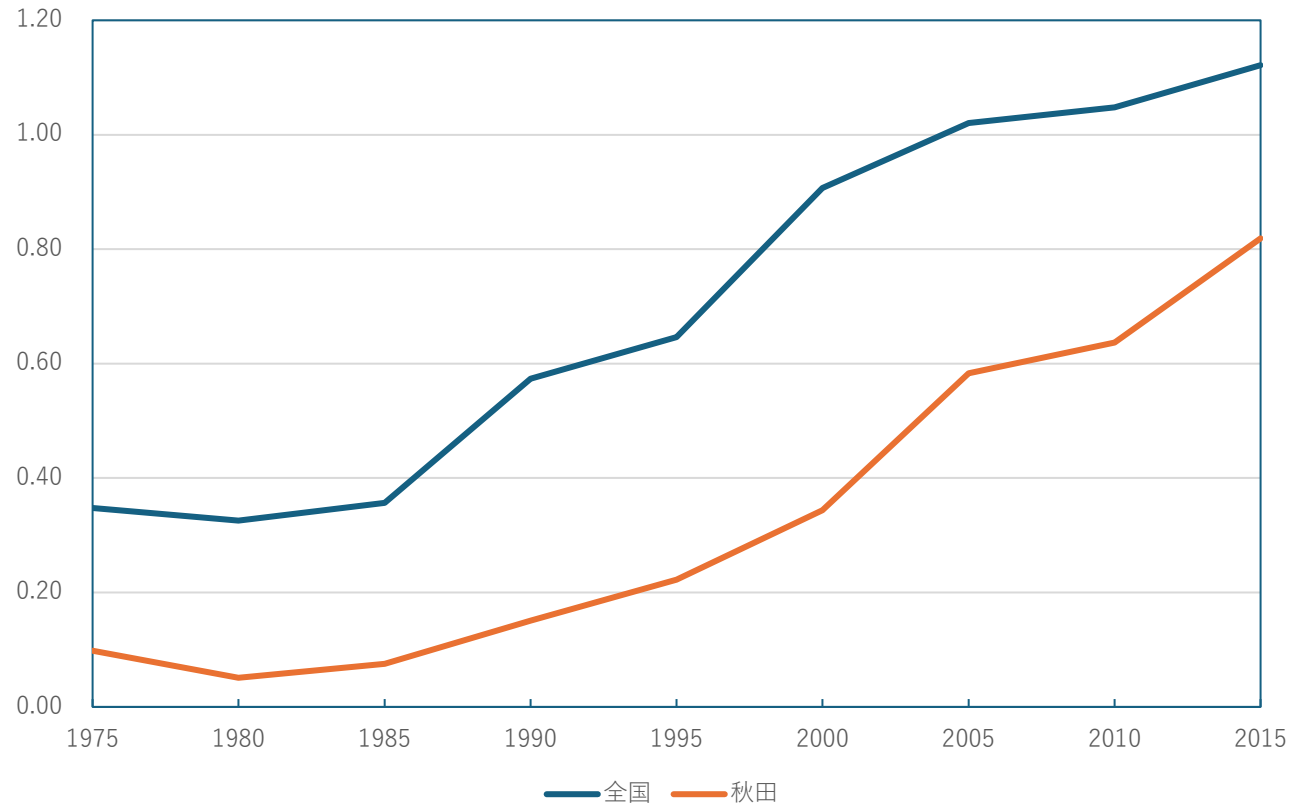


秋田県の人口推移と高齢化率の推移（65歳以上）



鹿角市・北秋田市の高齢化率の推移（65歳以上）

クマの利用できる環境の増加



耕作放棄地面積の増加 (農林業センサス統計より)

鹿角市の放棄果樹園

※国および秋田県の総面積あたりの耕作放棄地の割合 (%)

里に出るクマ，出ないクマ

- ◎ 集落周辺のみで生活するクマはいるのか
- ◎ 人慣れの進み具合は
- ◎ 集落周辺でどんな食物利用しているのか

GPS首輪，カメラ付きGPS首輪，活動量計，集中利用域調査などで明らかに

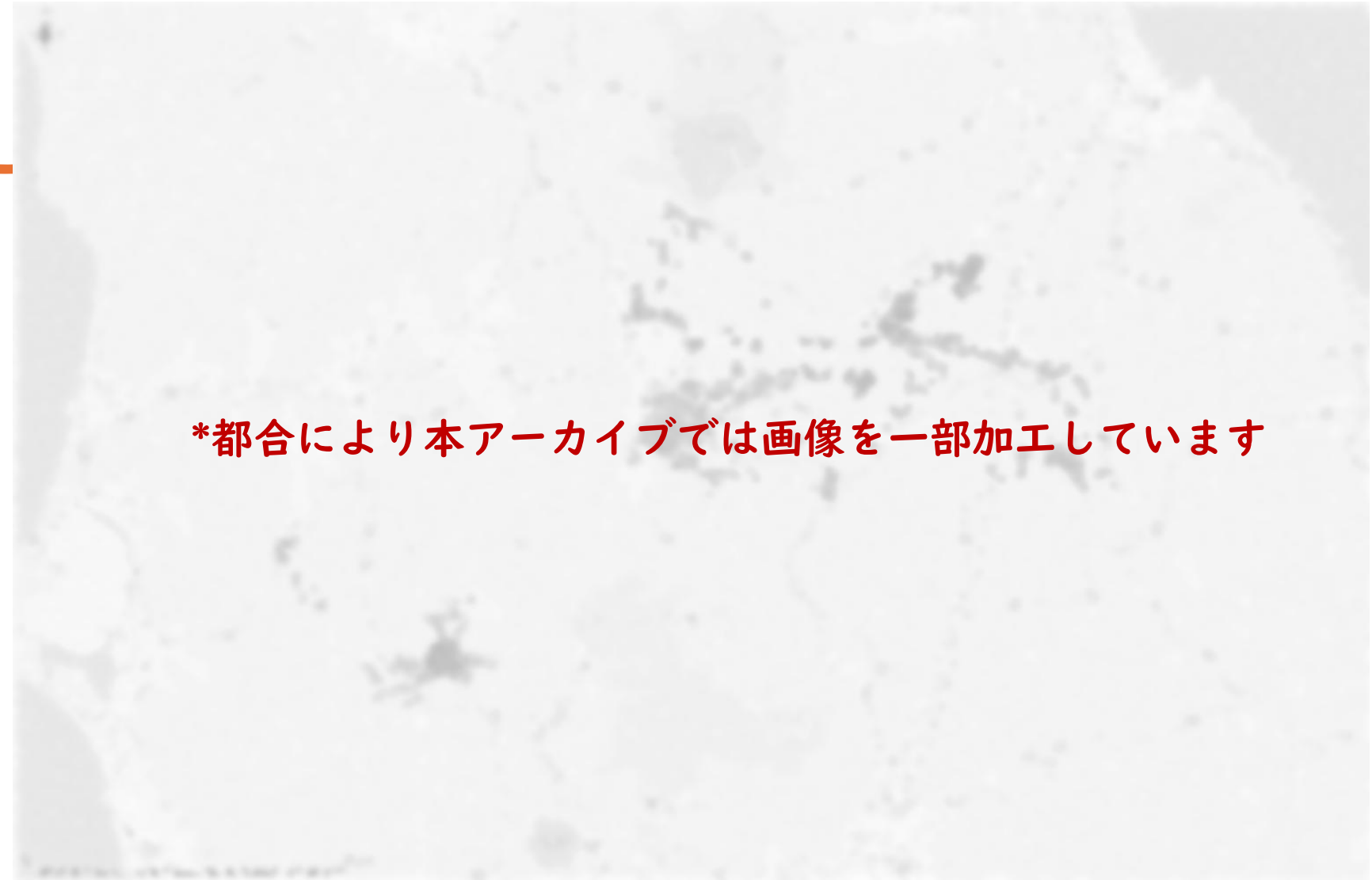


- 鹿角市花輪：秋田県自然保護課，鹿角市役所，NHK，農大，農工大
- 北秋田市阿仁：秋田県自然保護課，農大，農工大，打当猟友会支部
- 科研費 #25K02048 (2025年～)



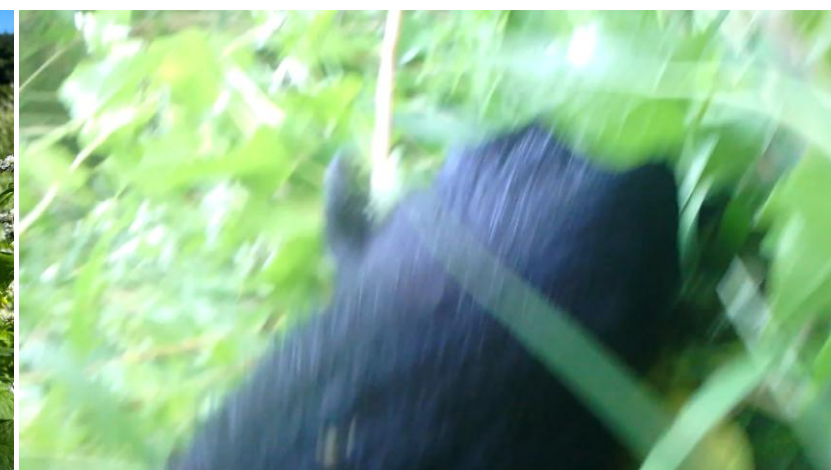
北奥羽管理ユニットでの広域管理の必要性

- 花輪地区9頭（オス6頭，メス3頭）
- 阿仁地区4頭（オス3頭，メス1頭）
- 秋田，岩手，青森の連携

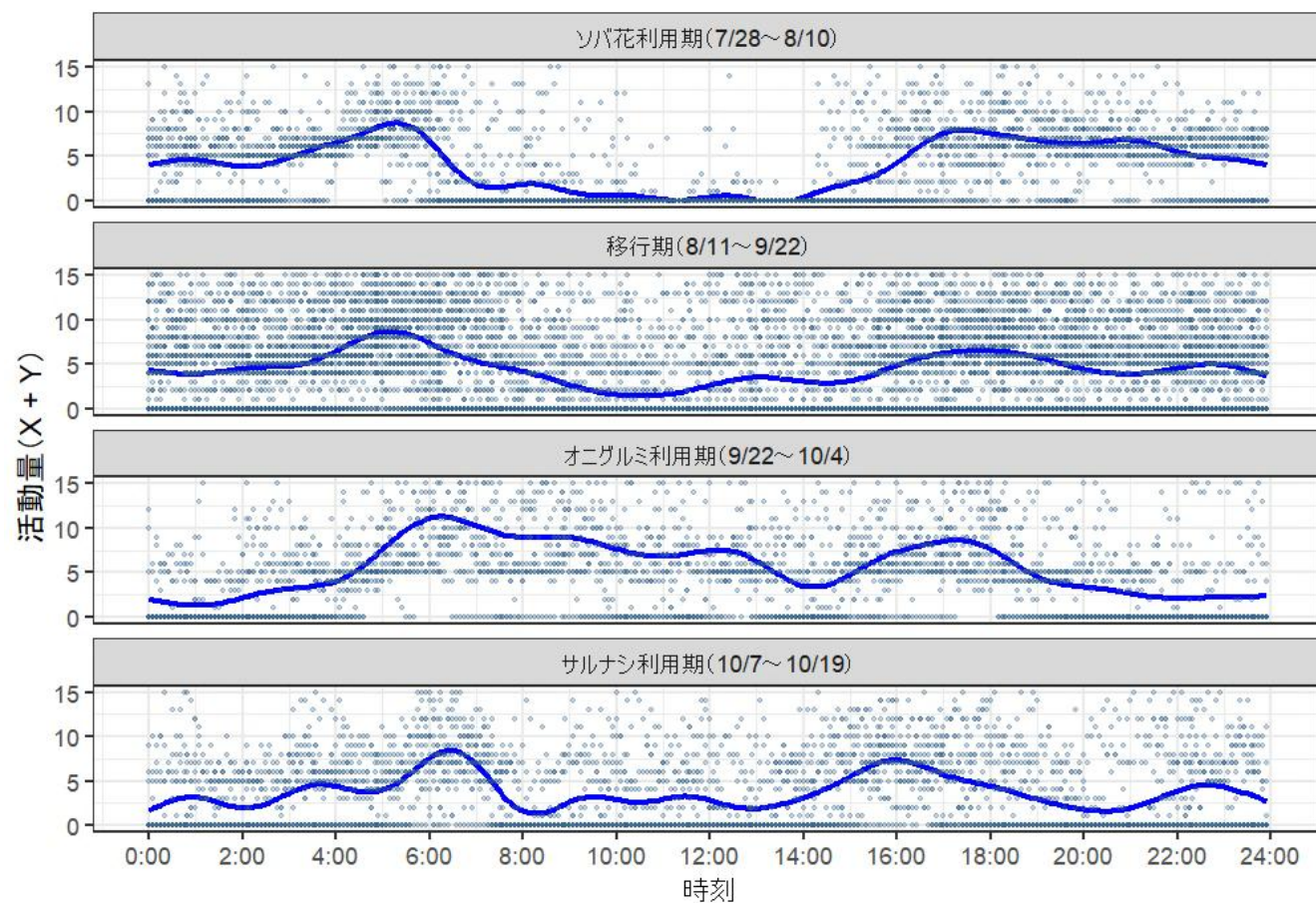


*都合により本アーカイブでは画像を一部加工しています

オス亜成獣はまだ人を気にしている

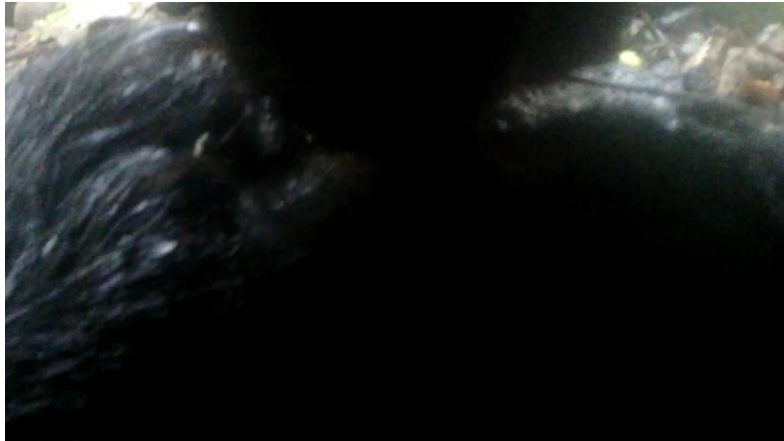


- 農地が大きな誘引場所になっている⇒ソバ畑
- 集落周辺では活動パターンを夜行性に变化させる⇒まだ人慣れが進んでいない



オス亜成獣はまだ農地だけに執着してはいない

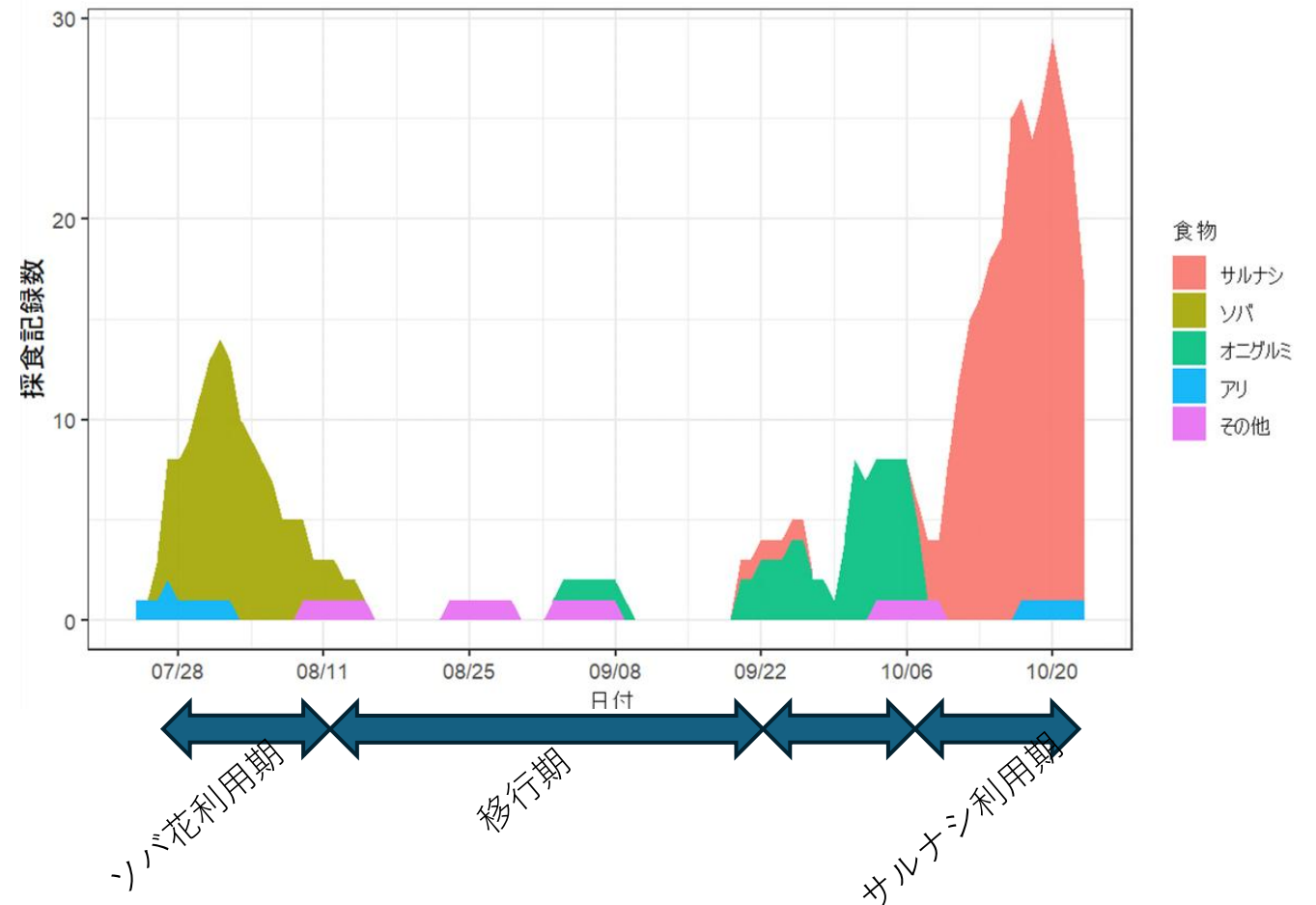
➤ 秋以降には農地から離れるオニグルミ（9月）やサルナシ（10月）の利用⇒捕獲圧のかけ方をどうするか？



オニグルミ



サルナシ



オス成獣の行動変化

- 2024年と2025年の7月の活動点の比較
- 2025年夏はより西側を利用
- 前年秋の堅果の凶作の影響？
- 行動が大胆になっている可能性
- 奥山も大きな割合で利用
- 農地管理の必要性
- 2026年4月許可捕獲



*都合により本アーカイブでは画像を一部加工しています

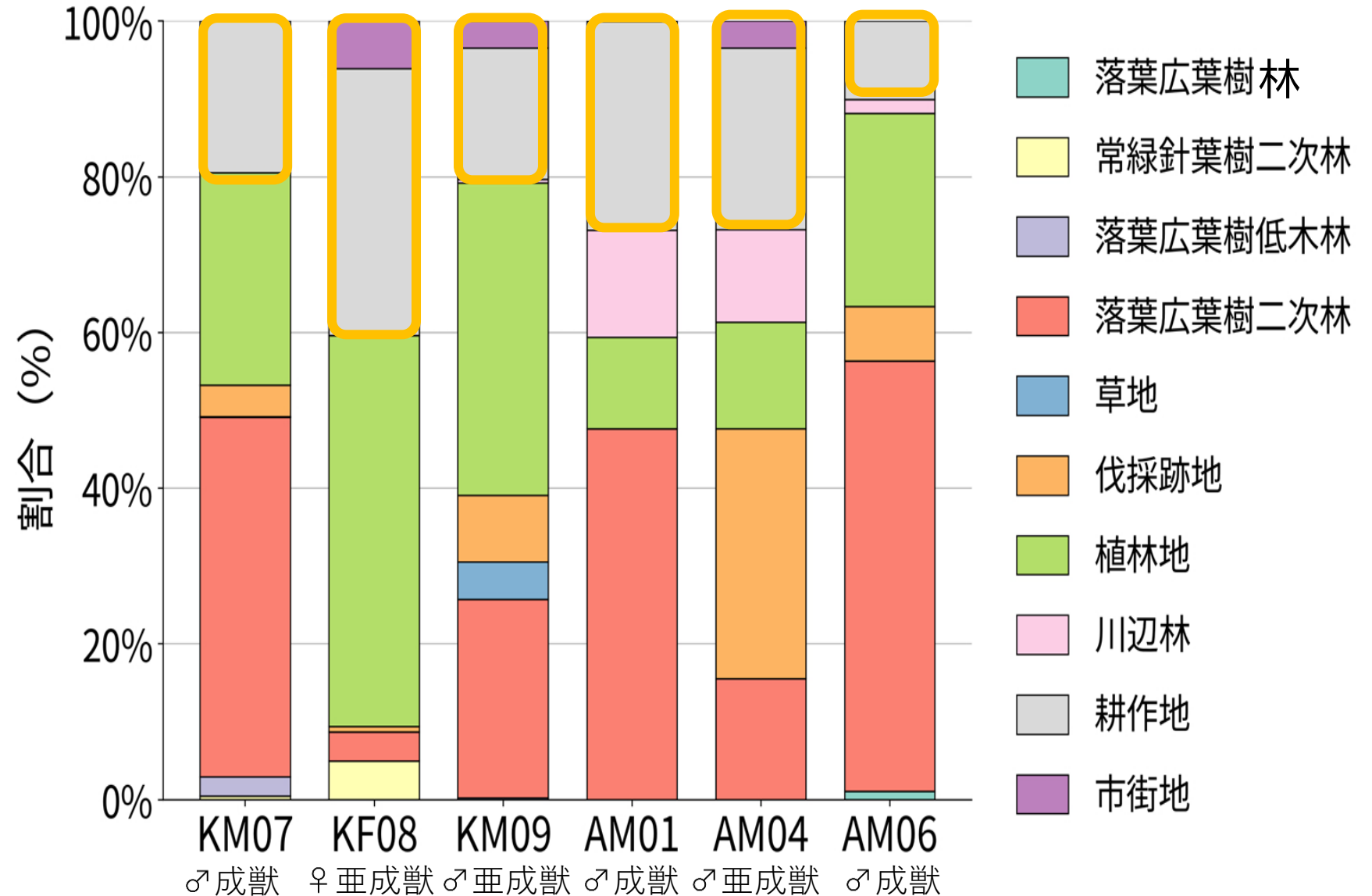
すべてのクマが 早々と冬眠した

- 冬眠場所は奥山
- 9月以降も追跡できた花輪地区の2頭は10月下旬～11月上旬，阿仁地区の3頭は10月下旬に冬眠⇒堅果不作年への典型的な応答
- 5頭は，オス，メスの順に3月中旬から4月上旬に冬眠明け

*都合により本アーカイブでは画像を一部加工しています

集落周辺利用をこれ以上加速させないこと

- 個体によって生息地利用はさまざま
- 農地だけに依存しているクマは追跡個体にはいなかった



どうする秋田のツキノワグマ

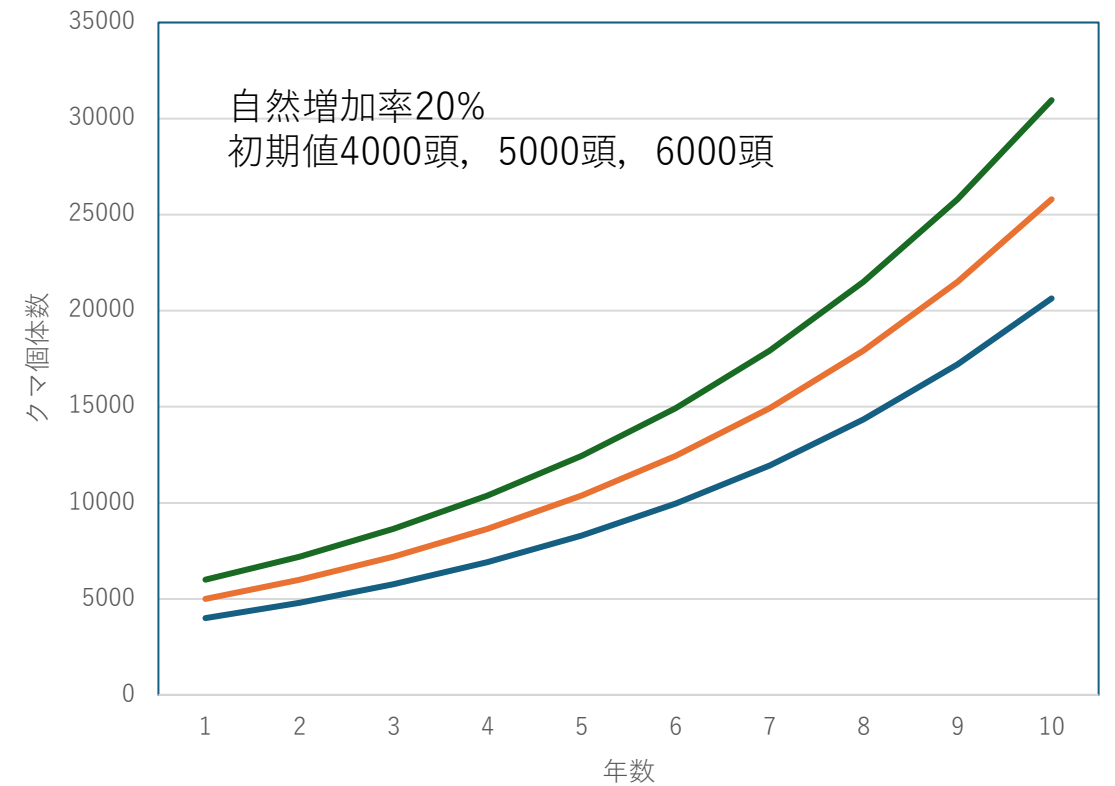
- 秋田県全域での推定中央値3,900頭
(2026年3月時点推定)

【白神山地管理ユニット】 秋田, 青森
【北奥羽山地管理ユニット】 秋田, 青森, 岩手
【鳥海山地管理ユニット】 秋田, 山形

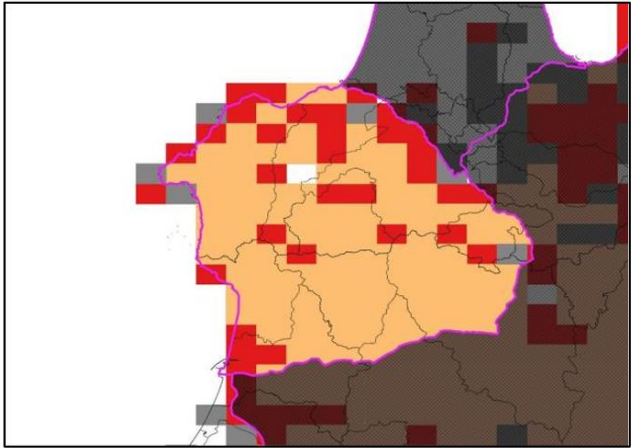
- 本州全体は3,565~95,112頭 (階層ベイズ)
(環境省2010)
- 2020年前後の各都府県の推定値を足しあげて
最低約45,000頭

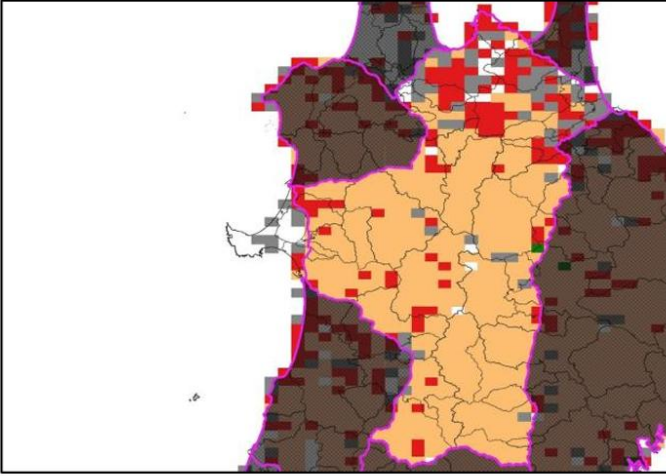
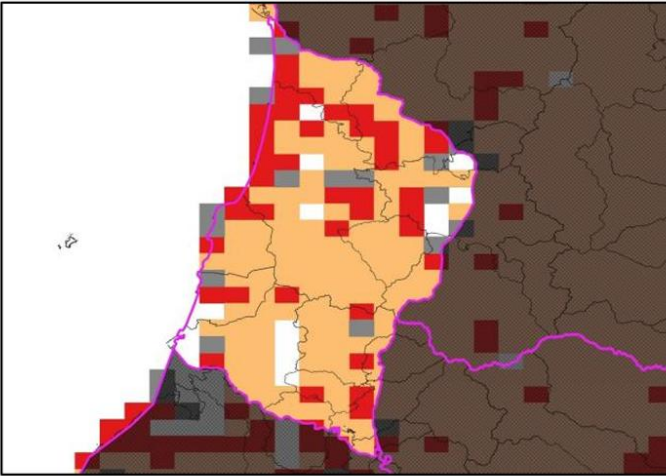


クマの増加予測



秋田県を含む保護管理ユニット

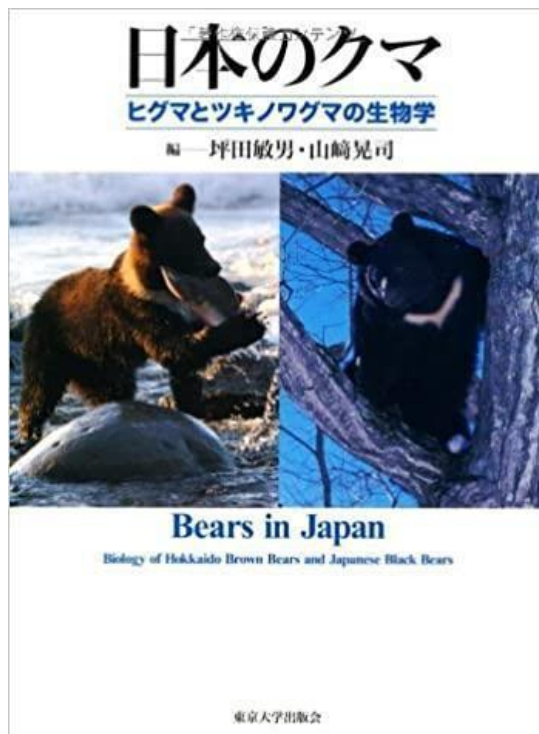
保護管理ユニット②：白神山地（青森県・秋田県）	
特定計画：秋田県	
RDB 選定状況 秋田県（2020）：継続観測種	
その他の状況： ♦ 生息環境が豊かで個体群の存続可能性は高い。	

保護管理ユニット④：北奥羽（青森県・岩手県・秋田県）	
特定計画：岩手県、秋田県	
RDB 選定状況 岩手県（2014）： <small>[タイトルなし]</small> Bランク 秋田県（2020）：継続観測種	
その他の状況 ♦ 東北地方の分布域の核となる広く安定した個体群。 ♦ 北部平野部での分布拡大が目立つ。 ♦ 男鹿半島でも生息情報が確認されている。	
保護管理ユニット⑤：鳥海山地（秋田県・山形県）	
特定計画：全県	
RDB 選定状況 秋田県（2020）：継続観測種	
その他の状況 ♦ 南北奥羽ユニットとの往来の可能性が高い。	

西日本と比べ管理面積とクマの数が多い

	秋田県	兵庫県	島根県	
人口	89万	520万	63万	人口動態統計（2024）
クマ生息メッシュ数	552	247	257	
クマ推定頭数	3900	667	1307	ただし、島根県、広島県、山口県の総計推定頭数で1307頭
管理ユニット（地域個体群）	3	2	1	
鳥獣職	5	-	13	兵庫：環境部自然鳥獣共生課，島根農林水産部農山漁村振興課
研究職	=	6	3	兵庫：兵庫県森林動物研究センター（県立大兼務），島根：島根県中山間地域研究センター
現場対策専門職	-	5	5	兵庫：鳥獣専門対策員（県行政職），島根：鳥獣専門指導員（有期雇用）

※秋田県は鳥獣職が現場対策業務を兼ねる



東大出版会(2011)



東大出版会(2017)



フライの雑誌社(2019)



東大出版会 (2026)